

町のイベントと合わせて  
トレイルを歩きに来て。  
そして泊まってって。

ながね としお  
**長根 俊男 さん**

マリンサイドスパたねいち 支配人

昭和26年、岩手県洋野町生まれ。  
平成23年4月よりマリンサイドスパたねいちに従事。

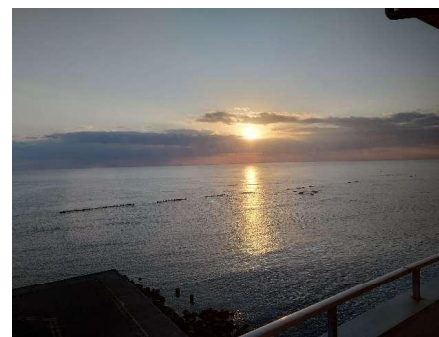
マリンサイドスパたねいちが平成23年4月11日にオープンしました。

東日本大震災の時はリフォーム中でしたが、震災が起きたことにより復興関係の方々が来られることから施設のオープンを早めました。

建物に被害はありませんでしたが、近くの漁港から多くの船が目の前の道路に流れてきて撤去など大変だったことを覚えています。

トレイルとの関わりとして、平成25年に洋野町区間が開通したのと同時にハイカーの宿泊割引きサービスを始めています。マリンサイドスパたねいちのホームページはあるもののSNSはやっていませんが、トレイル関係のSNSをみて連泊する外国人のハイカーが最近では増えています。皆さま、あえて和室指定で泊まれるんですよ。

毎年、春頃からハイカーが増えるので、今年も近隣のホテルと連携して呼び込みをしたいです。町の行事もたくさんあるので併せてトレイルを歩きに来て欲しいのと、町内の温泉巡りイベントも今後考えているので、もっともっと泊まりに来て欲しいと思っています。



施設の大浴場からは朝日と共に、洋野町の海岸の特性を生かしたウニの「増殖溝」を望むことができます。



アメリカンな雰囲気  
町の風景と歩みを  
たっぷり味わって

おかりえ  
**岡 利恵 さん**

おちゃっこクラブ／ダイヤモンドヘッド 店主

昭和55年、宮城県名取市生まれ。  
東日本大震災前に仙台市からご主人の実家がある女川町へ移住。  
今は亡きご主人のアメリカンなコレクションたちに囲まれた  
ハイカーにも地元の方々にも愛されるアットホームなお店を切り盛りしています。

名取トレイルセンターの方からみちのく潮風トレイルのお話を聞く機会があり、取り組みを知りました。歩いている方を見かけても、なぜ歩いているのか、どこに行くのか疑問に思っていました。店に訪れた際には、次はどこに行くの？今日はどの山を登ったの？などと話をするようになりました。そんな中、私の子どもがみちのく潮風トレイルに関係する仕事に就き、心身ともに成長する姿を見て頑張れ！とエールを送っています。私は歩いたことがありませんが、歩く以外でも関われることができていると感じています。

今の場所にお店を構えたのは2020年頃です。女川は防潮堤がなく、道路ごと嵩上げしているのですが、標高が低いこのお店からでも海の景色が見えます。ここから見える崎山地区の山の形がハワイのダイヤモンドヘッドに似ていたこと、アメリカに憧れがあったことから、今は亡き主人が店名をダイヤモンドヘッドと名付けました。東日本大震災で被災後は、病院の敷地内でプレハブ営業した際の店名がおちゃっこクラブでした。病院帰りの憩いの場として8年以上営業し、どちらの店名も定着したため、併記しています。店内は雰囲気のあるアメリカン雑貨などであふれています。

毎年正月に行われる女川町の伝統芸能・獅子振りにも携わっており、獅子が各家をまわり新年のご挨拶と邪気を払う際に太鼓や笛などを鳴らす通称・鳴り物の役目を女性陣が担っています。まわる家の件数の減少や担い手の高齢化など、今後の伝統継承に不安もありますが、正月の風物詩としてできるかぎり継承していきたいと思っています。

お正月には、金華山からの定期船が女川に戻ってきた際、待ち構えていた獅子が乗船客の頭にパクッと噛みつくので、ハイカーのみなきさまにも女川に根づく伝統芸能に触れてほしいなあ。



汗をかきつつ下山してきたハイカーに人気の名物のナガリタン。  
明るい店主と賑やかで楽しいアメリカン 雑貨たちが心地よく、  
気付けば1時間2時間過ぎた！なんてことがあるかも。  
たっぷりビタミンチャージをするゼロデイ、ありかもしれませんよ。



挑戦する  
若者たちに  
恩返しを

なかの よしたか  
**中野 禎貴 さん**

マミーストアー 社長

昭和44年、岩手県野田村生まれ。  
叔父が昭和50年に創業したスーパーを継承。  
店舗敷地内にてハイカーにてテント場とトイレを提供している。

野田村観光協会から、ハイカーをサポートする施設「トレイルオアシス」としての協力をお願いされた時に「みちのく潮風トレイル」という言葉を初めて知りました。チェックリストを渡され、その中のテント場とトイレの提供ならできると、協力することになりました。

お店は震災の時に波を被り、店内が2mくらい浸水しました。すぐ隣を流れる川には対岸に歩いて渡れるほどの瓦礫が積み重なっていました。あの時はとにかく日々無我夢中で必死でしたね。店内の壁やシャッター、冷蔵庫などは、取引先が非常に協力してくれて、早くに修復することができました。その時は人の温かさを感じましたね。よそから来た大学生達若い方も手伝ってくれて、皆さんの力で復興することができました。

トレイルオアシスになって始めの頃に、一人でテント泊をしていた若い方が全線踏破したいと言っていたんです。チャレンジ出来るって、若いって羨ましい。この年になってくると出来る事が減り、時間も無く、体力も落ちてきます。トレイルを歩いたことがないので、時間があれば歩いてみたいですが、休みの日は疲れて寝てるだけなので、若い内に出来ることはやったほうがいいですね。

震災時に手伝ってくれた本人でなくても、大学生や若い年代の人たちへの恩返しになればと思い、テント場とトイレの提供は引き続き行っていきたいです。お店としても地域に根ざして地道に商売しつつ、そういう人達をこれからも応援していけたらいいですね。



品揃え豊富な食料品の他にも野菜の苗や雑誌も扱っています。  
テント場とトイレは正面右側の裏手にあります。

